

微生物資材の育苗用土への活用

技術の概要

微生物資材(バイオ有機)を病原菌に汚染された用土に1%添加し、育苗したキュウリ苗は、添加していない場合に比べ健全株率が高くなり、根部褐変が少なくなります。また、微生物資材(エコガード)を用土に3%添加し育苗したトマト苗を病原菌に汚染された土壌に定植すると、添加していない場合に比べ健全株率が高くなります。

●バイオ有機の添加の有無によるキュウリ苗の健全株率

※品種:パイロット(自根)、バイオ有機添加量:1%(重量当たり)、病原菌密度:10⁵CFU/g

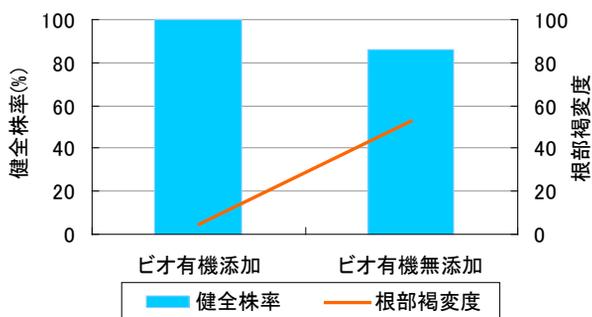


図 キュウリの生育状況

●エコガードの添加有無による定植後のトマト健全株率

※品種:リンカ409(自根)、エコガード添加量:3%(重量当たり)、定植日:5/26

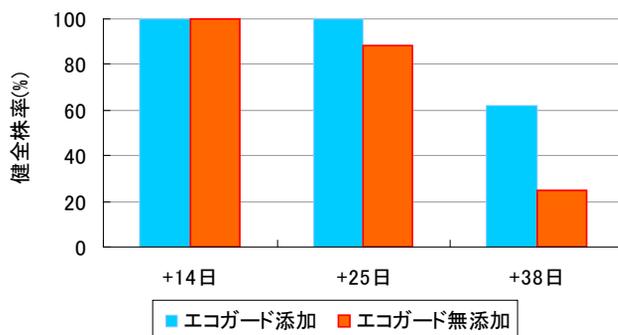


図 定植後トマトの生育状況

期待される効果

微生物資材(バイオ有機・エコガード)を添加した用土で育苗した場合、ほ場に直接微生物資材を施用する場合と同様の効果が得られ、また、ほ場に直接施用する場合に比べ省力的であり、使用量も少ないことから費用削減が期待できます。

●微生物入り資材の使用に係る費用の試算

品目 (植え付け本数)	使用量(kg/10a)		資材費用(円/10a)	
	ほ場施用	育苗用土添加	ほ場施用	育苗用土添加
バイオ有機 キュウリ(1,000株/10a)	200~300	2	60,000~90,000	600
エコガード トマト(2,000株/10a)	100	12	40,000	4,800

※育苗用土への添加量は、バイオ有機:1%、エコガード3%(ともに重量当たり)で試算した。

苗産業ふくしま復興コンソーシアム

【お問い合わせ先】

片倉コープアグリ株式会社 筑波総合研究所

TEL:029-832-0901 FAX:029-831-7881

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。